



第34回東海陸水談話会

日本陸水学会東海支部会研究班

第2回調査報告会

「御嶽山麓・濁川の生きものと水環境
～酸性水,崩壊土砂,火山噴出物とそれに
適応する水生生物の営み～」

「御嶽山噴火が水域生態系に及ぼす影響」を明らかにすることを目的とし、日本陸水学会東海支部会研究班が最近二カ年にわたり、木曾森林管理署管轄国有林内にて実施した調査研究※の成果をご紹介します。

(※ 国有林 2343-2347, 2357, 2371-2373, 2378 への入林許可を得て実施しています。)

2019年7月19日 **金**
18:00～20:00

場所: **愛知工業大学本山キャンパス**

〒464-0807 名古屋市千種区東山通 1-38-1

<http://www.ait.ac.jp/access/motoyama/>

御嶽山の南山麓に位置する濁川は、酸性河川として知られ、1989年の御嶽崩れ、2014年の噴火の影響を大きく受け、治山整備され、復興しながら現在に至っています。日本陸水学会東海支部会では、2014年の噴火以降、濁川を含む王滝川水系で、水質、付着藻類、水生昆虫、魚類を含む、水環境に関する調査を進めて参りました。本報告会では、濁川の特異的な水質環境における水生生物分布の現状を踏まえ、崩壊や噴火の影響を推測しつつ、火山山麓に成立してきた特殊な陸水生態系についてみなさんと情報共有し、今後のあるべき姿を考えたいと思います。

本研究は、WEC 応用生態研究助成(一財・水源地環境センター、2015-04、2017-05)の助成を受けて実施されました。また、令和元年度より科学研究費補助金 基盤研究(B)(課題番号:19H04318、研究代表者:田代喬)の助成を4年間の予定で実施されています。

協賛:ため池の自然研究会、応用生態工学会名古屋

本談話会は、土木学会継続教育(CPD)制度のプログラムとしての認定を予定しています。



研究報告

(1人20分程度)

「濁川を1年間眺めてみて:

水質調査から見えてきたこと」

松本嘉孝:豊田工業高等専門学校

「酸性および中性支川流入による

王滝川本川水質特性への効果」

宇佐見亜希子:愛知工業大学

「無機酸性河川における藻類の生活」

野崎健太郎:椋山女学園大学

「火山活動に伴う強酸性水および

大規模攪乱が魚類群集に及ぼす影響」

小野田幸生:土木研究所

「御嶽山噴火口から流出する濁川周辺の

景観:UAVの撮像からわかること」

田代喬:名古屋大学

「地理学的に見た王滝村の

人間活動と河川環境」

谷口智雅:東京大学 CSIS

申込不要
参加費無料